

# 「生きものにふれあえる大阪城公園をめざして」



NACS-J 自然観察指導員・大阪連絡会  
垣井 清澄

# 大阪城公園ってどんなところ？

- ・都市公園（歴史公園）
- ・1931年に開園。広さ105.6ha（大阪市内2番目の広さ）。
- ・公園内には、史跡や重要文化財、体育施設、広場、森、梅林、桃園、神社、他、があり多様性に富んだ場所になっています。
- ・土地の8割強は国、残りほとんどが市、ごく一部が民、府の有地。
- ・1964年に大阪市の緑化100年宣言の記念公園（都市生活者の憩いの場と緑の量を求めて）として誕生。
- ・1967年に森林公園としての造園を開始。



- ・大阪城公園は、政令指定都市で、1人当たりの都市公園面積が最も少ない大阪市内の中で貴重な緑地になっています。
  - ・植物は、高木・中低木を含め約200種、約13万本を数える。科別集計500種超。
  - ・動物は、哺乳類3種（陸の孤島状態）、爬虫類8種、昆虫400種超、魚類13種（壕）。
- 野鳥については日本有数のバーチウォッチングのメッカ。169種確認。（渡りの中継地となっています。）





# 大阪城公園でこれまで実施してきた自然観察会その1

## 早春の大阪城公園を楽しもう 2019年

- ・野鳥、虫の冬越し、キノコ、冬芽、等の観察。
- ・シロバナタンポポ、梅の花、等の早春の気配。



## 大阪城公園観察会「春を見つけよう」 2018年

- ・野鳥、虫の冬越し、冬の木、地面近くの生き物、等の観察。
- ・オオタカを確認。

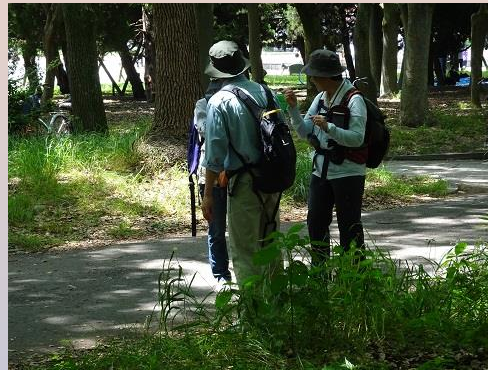




# 大阪城公園でこれまで実施してきた自然観察会その2

## 大阪城公園「初夏の自然観察」 2016年

・粘菌、樹木、虫、等の観察。

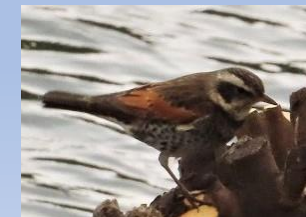
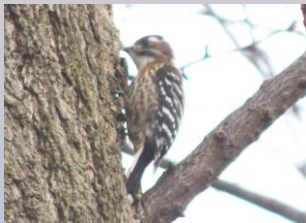


## 大阪城公園「冬の自然観察」 2016年

・野鳥、虫の冬越し、キノコ、ロゼッタ、等の観察。  
・タンポポ、梅の花、等の早春の気配。







# 近年の公園の開発や管理の面で懸念している点

こうした大阪城公園ですが、近年は商業的利用のために木々が伐採されたりしています。

森ノ宮の入口近くの噴水周辺カワヅカイブキの群落は伐採されてしまいました。

クールジャパンパーク大阪の建設のために樹木が伐採されてしまいました。

更に、サクラの植栽のために既存の樹木が伐採されました。今後も続く様です。

この様に、大阪城公園は今、商業化推進により、これまで維持されて来た都市公園の緑地機能の低下の危機に晒されています。

公園の緑は、都市の温度を下げてくれる他、虫や小鳥には重要な生息場所です。

大阪市環境局は生物多様性戦略を謳い、大阪城公園は緑化強化地域としていますが矛盾をはらんでいます。



## Let's look for spring ! ～春をさがそう！～ 2021年

これらの現状を、把握するために、現地に詳しい方の情報を基に次のコースを歩いて見ました。

森ノ宮駅前噴水→②市民の森→クールジャパン大阪→③有料バーベキュー広場→④東外堀→階段上がる→⑤音楽堂西側小道→⑥ピースおおさか→⑦沖縄復帰の森→⑧南外堀→⑨桜広場→蓮如上人の石碑→⑩内堀→⑪雁木坂→⑫青屋門→⑬飛驒の森



①森ノ宮駅前噴水

カイツブリが伐採されて芝生・商業施設(スターバックス等)に成ってしまいました。

②クールジャパン・パーク大阪

市民の森の木を伐採して建てられました。夏でも涼しい場所だったのに。

③有料バーベキュー広場

以前は自由に場所取りできた場所が、有料化して大規模なバーベキュー利用の場所に成りました。木々や小鳥には迷惑です。ここもIかがの営巣していた木が剪定されてしまいました。



④東外堀

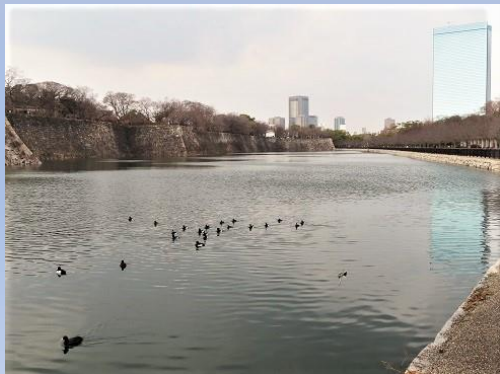
水鳥でいっぱいのお堀でしたが、トライアソン大会で泳ぐ様になってから少なく成ってしまいました。

⑤音楽堂西側小道

小鳥スポットで、Iかがが営巣した場所が、樹木の行き過ぎた剪定で壊されてしまいました。

⑥ピースおおさか

ここもIかがの営巣していた木が剪定されてしまいました。





⑦沖縄復帰の森

北ぐ舩の営巣が話題になりました。営巣場所を確認して剪定されない事を望みます。

⑧南外堀

かみの定位置の木が伐採されました。材効が留まった木が剪定されました。

⑨桜広場・蓮如上人の石碑

柵の更新のため楡の木が配慮されずに伐採されました。色々な提言についても聞く耳を持たれなかった様です。



⑩内堀・⑪雁木坂

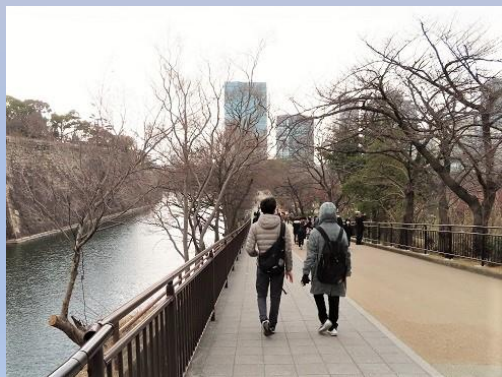
御座船、清掃ボートによりオトリが逃げました。柵の更新のため配慮なく低木が伐採されました。

⑫青屋門

門の傍の北外堀に突き出た木にはアトリが飛来していたが、過剰に剪定されてしまいました。

⑬飛驒の森

電飾イベント・サウミの音量が凄く、ノマやアカショウノが逃げました。



生物多様性の確保と言う視点が全く抜けている様に思われます。

こうした公園の商業的利用が優先される方向性は時代に逆行しているのではないのでしょうか。

大阪市に対して生物多様性についての配慮を求めて行きたいと思います。



# これからの大阪城公園の利用や管理について

大阪城公園において「生物多様性に配慮した公園管理と活用を考え、活用の実践と、公園管理に係る組織（指定管理者や大阪市の関係部署）とのコミュニケーションの場を作っていく」と言う「動き」を、この生物多様性NW会議を機会に作って行きたいと思っています。

この意見は、昨年の生物多様性NW会議でアンケートに書きました。今回の会議で、具体的な動きにして行きたいと思っています。

## 報告

### 若者に向けた生物多様性 保全活動への取り組み

スマホアプリB I O M Eを活用した  
生物多様性保全の新しい手法を紹介します。

## 意見 交換会

### 生きものにふれあえる 大阪城公園をめざして

テーマに沿って情報交換を行い、各主体  
との連携さらには活動の向上を図ります。



1. 大阪城公園の管理において、現状に懸念があり、生物多様性配慮を市民参加で進めたい。

- ・公園管理について、生物多様性配慮から見ると、その工夫が見られない管理が進められていると思われます。「渡り鳥がお濠に休息する事への配慮」、「小鳥が営巣する木々に配慮した伐採や剪定」、「公園内イベントにおける生き物への配慮」等々です。
- ・公園の生き物を見続けている人たちも存在します。「日本野鳥の会・大阪支部」、「NACS-J・自然観察指導員大阪連絡会」、「大阪城公園ネイチャーゲームの会」等々の人たちの声を、公園管理の方々に届けて、市民参加で生物多様性配慮に取り組めないかと考えてます。

2. 本年2/19（前回のNW会議）の事例発表であった様な民間企業の緑地管理が見習えるのではないのでしょうか。

- ・緑の質について問われていました。野鳥や昆虫との関係性、地域の在来種の有効性などに配慮して行けないのでしょうか。
- ・生態系発想、美観の受けとめ方、管理容易性について問われていました。（生態系を踏まえたゾーニングと管理。美意識は意味が分かれば、見方・感じ方が変わる。そこで発生した自然素材を活用、宿根草を活用、等。）
- ・多様なステークホルダーとの連携、地域コミュニケーションの場、体験の場、としての大阪城公園の活用。

3. 大阪城公園の大阪市管理部署や指定管理者とのパートナーシップを有志で進めたいと思います。

- ・まず、生き物情報に基づく公園管理への提案を行える私たちサイドの行動の見通しを作りたい。
- ・その上で、公園管理側の窓口を明確にして頂き、必要に応じたコミュニケーションの場を求めたいと思います。